資料 R2-1-4

# 重遮蔽された貨物コンテナの中に隠された 核物質の検知技術開発について ~LCSγ線NRFの開発成果~





量子科学技術研究開発機構(QST) 量子ビーム科学部門 上席研究員 JAEA連携協力職員 羽島 良一

<u>令和2年度 第1回 核不拡散科学技術フォーラム</u>

ガンマ線=光(電磁波)の仲間



## 光のエネルギー、波長による性質の違い



https://upload.wikimedia.org/wikipedia/ commons/e/ec/Alpha\_helix\_neg60\_neg45\_sideview.png

wiki/File:Reactive lymph.JPG

### ガンマ線の発生源



ガンマ線のエネルギー

レーザー・コンプトン散乱(LCS)ガンマ線

レーザー・コンプトン散乱





5

## XRF と NRF



核共鳴蛍光 Nuclear Resonance Fluorescence



核種(同位体)分析に利用可能

#### ガンマ線による核物質の非破壊測定





放射性廃棄物中のRIの非破壊測定



R. Hajima et al., J. Nucl. Sci. Tech. 45, 441 (2008) J. Pruet et al., J. App. Phys. 99, 123102 (2006)

SNM: special nuclear material

#### ERLに基づくLCSガンマ線源の提案



## 技術開発と実証実験

LCS発生の技術開発、実証実験 狭帯域のLCSビーム生成を実証 LCS experimental rooms electron gun E=6.91 keV 6000  $\Delta E = 173 \text{ eV}$  (FWHM) superconducting accelerator 1200 cps @ \u00e94.66 mm CS gamma-rays (9-cell x 2 cavity) Counts 4000 (silicon drift detector) LCS chamber 2000 1-loop 3000 5000 7000 9000 11000 Energy [eV] T. Akagi et al., Phys. Rev. Acc. Beams 19, 114701 (2016).



研究チーム

周回軌道

#### 重遮蔽された物質の非破壊検知の技術実証





#### 核物質の濃度が小さい場合の測定に対する懸念



#### 分岐NRF測定=弾性散乱バックグラウンドの分離



12

## MeVガンマ線の弾性散乱



それぞれの散乱は位相を考慮して足し合わされる=量子力学的干渉効果

特に計算が難しいのが、Delbrück散乱

入射光子と原子核電場(仮想光子)の散乱 → QED(量子電磁力学)で記述

精確な断面積を得るには膨大な計算(特異点を含む積分)。「京」でも困難。

いくつかの近似のもとで計算した断面積データのみが存在。

## Geant4 へのデルブリュック散乱の組み込み

核物質の検知分析装置の設計、 QED検証実験の立案のため、 Delbrück 散乱を含む モンテカルロコードが必要

Delbrück 散乱を計算できる モンテカルロコードが存在しない

Geant4 に Delbrück 散乱を組み込み



#### 従来の Geant4 では、Rayleigh 散乱のみ考慮



### 技術開発の成果(その他)



C. T. Angell et al., Phys. Rev. Lett. (2016)	
静间馁行、日本物理字会誌(2019)	

試料	計算値	測定値
コンクリート	0.96±0.01	0.95±0.02
キャニスター	0.96±0.01	0.97±0.03
AI	0.66±0.01	0.65±0.02

C.T. Angell et al., Nucl. Instr. Meth. B 347, 11 (2015)

国際会議、Nuclear Photonics の立ち上げ



## NRF技術実証試験ワークショップ

2020年1月24-25日、ニュースバル放射光施設にて開催。 文科省補助金:核セキュリティ等強化推進事業費(2011-2019)の事後評価



産業技術総合研究所、LLNL、IAEA、 EC/JRC、ANSTO、STUKから評価者 重遮蔽した核物質(模擬物質)の 検知実験のデモンストレーション

NRF NDA is a unique method that categorized as a long-term development technique. Applied research (<u>TRL 3</u>) and small scale prototype experiments (<u>TRL 4</u>) were carried out.

「核セキュリティ及び核不拡散分野における独創的な非破壊測定技術として注目に値 する。目標と課題を達成したのみならず核データや基礎科学やその理解に有用なアプ ローチを提供した。」



技術成熟度



#### • Technology Readiness Level (TRL) – originated by NASA for the first time (1989) 各技術レベルの定義には多くのバージョン



https://unit.aist.go.jp/adperc/ci/research/outline3.html

## ロードマップ:実用化を目指して(TRL=3→TRL=9)

